

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 28 年 12 月 7 日〔水〕 19:30～
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 2 階 あまみエフエム会議室 にて
- 3 出席委員 委員総数 7 名 出席委員数 5 名

出席委員の氏名

藤井 琢磨／楠田 哲／和泉 豊一／星村 文乃／徳山 貴広

放送事業者側出席者名

丸田 泰史／渡 陽子／手蓑 慎之祐

4 議題

審議(「ナキャワキャ島自慢」について)

5 議事の概要

- (1) 審議(「ナキャワキャ自慢」について)
- (2) 次回の審議議題について

6 審議内容

- (1) 番組内容の審議(「ナキャワキャ島自慢」について)

藤井委員長

第 59 回あまみエフエム放送審議会をはじめます。今回の議題は「ナキャワキャ島自慢」について。内容は、「奄美群島では、隣の集落(シマ)であっても、言葉も違えば、風習／文化／伝統に違いがあり、それぞれ集落(シマ)ごと独自の歴史と文化が存在します。集落民が守り、伝えてきたものを、お話し頂いて、リスナーさん自身の集落(シマ)を思いおこして欲しい。また、集落(シマ)に関することに参加してほしい。」ということで、みなさんに聴いていただいたご意見ご感想をいただきたいと思います。

徳山委員

みなさんお疲れ様です。

今回ナキャワキャ島自慢、(宇検村)芦検集落ということだったんですけど、うちの父が(宇検村)名柄集落出身なので、宇検の言葉は全部わかったのでだいぶ楽しめた印象があります。その中でも”待ち網漁”とか、そういった文化が知らなかったのも、どういったものかちゃんと説明があって、その中でみなさんがどんな感じで会話して、思い出を語ってくれたかというのも、また面白おかしく聴けてよかったと思います。

また、”網ダマス”、”たます分け” のことも名前は聞いたことあったんですけど、実際どんな感じかとは知らなかったのも、今回、この CD をきいてかなり勉強になったところもあります。うちの父に聞いてみても「(名柄でも)待ち網漁やっていたよ」と言っていたので。そういった意味でも家族との会話も繋がってよかったと思います。ただ、ひとつ、話のなかで、青年団の話がきけなかったのが残念でした。現役の青年団にも話をきいて、年輩の人達とのやりとりも収録していたら また面白かったかと思いました。

藤井委員長

時計回りでいきましょうか

和泉委員

お疲れ様です。

今回、芦検集落のコツテコテの方言をきいて、すごくいいな～っていうのがありました。それはなぜかという、自然にこう言葉がでてきて、陽子さんも同じ宇検ということで、同じ地区同士での会話がこれだけスムーズにラジオに流れて、またそれが記録に残るっちはすごくいいことだと私は思いました。

私も芦検集落知っているんですが、ラジオを聞いてて情景がうかぶのが、自分は古い人間なのかかわからないんですが、それがすごく良かったです。

なんか、待ち網している風景とか、こう作業しとっていきなり呼ばれたとかいうのがラジオを通じてなんか実際に動いているのがこうやっているときにこう呼ばれたとか。「来いよ～！」っち(呼ばれて)行ったら、パァ～っち走ってくる情景がラジオのそこから映像が頭の中にこう出てきたっちは、他の方はどうかかわからないんです。私はちょっとなんか待ち網している雰囲気とか、なんかそのイノシシを追い込むときの、あれなんか情景が出て来て、なんかラジオきいてってなんかその、映像が浮かぶっちというのがすごく良かったなあっていうのを感じました。なんですかね～、こういうのがですね、本当に高齢者の話しに若い人が加わるのもなんですが、高齢者が亡くならないうちに他の集落がこういうのができたらなあっていうのをすごく感じました。

あちこち、ナキャワキャ島自慢ですたれていく小さな集落であっても、何かしら昔の話しをしていただけたら何か面白い話しもきこえるのかなあっていうのも感じました。方言に関しては、各シマジマ(集落集落)全然ニュアンスは違うのかもしれませんが、一番良かったのは、地の言葉で標準語じゃないんですが、地の言葉が自然に飛び交うようすがラジオで流れたのはすごくいいことだと思いますので。ぜひ今後とも何かそういうことがあれば色んな所まわって流してほしいということをすごく感じました。

楠田委員

陽子ちゃん宇検村の出身ということで、非常に和気あいあいとした雰囲気がそのまま伝わって、ほんとおんなじですね。情景がやっぱ想像できて、すごくいい内容だったと思います。

(内地出身の)うちのかみさんは言葉がほぼわからないって言ってました。同じようにIターンの人とかもまったくわからないだろうと思うんですけども、こういう番組づくりは積極的にすすめていいんじゃないかなと、僕は個人的にはすごくそう思います。

最初が自己紹介みたいなかたちでなっていて、はじめてこのCDきいて、「えー！自己紹介やっちゃうの？」と思ったんですけどもそれもそれでみなさんの人生が結構いろいろあって、それもすごく楽しかったですね。

割とハキハキされている方が多いですよ。おじちゃんおばちゃんの唄がまた！アカペラで歌うんだけれども、CDつくってくんないかな～と思って。本当にそう思ったよな。あのおばちゃんなんか、朝崎郁恵さんみたいな声で、素敵だなあ～って。そんな風に思いました。あと、うちの土浜集落なんですけど取材にぜひ来てもらいたい。資料としてもすごく素晴らしいもので、そう思ったところです。いつでも声かけてください、人は集めますから。

藤井委員長

いい点は（自分のように）外から来た人でも島のほっこりした感じが伝わってほんとうにいい番組だなあ～って思いながら聞きました。いい点はみなさんが言っているのですが、ちょっと違う視点でいくと、外からきた僕、I ターン者的な人だと単語単語で何の話をしているのはわかるんですけど、聞いてて（言葉が）わからないということがどうしても出てくる。でも楠田さんも言ったんですけど、そういうのも気にせず、島の感じを聞いてもらうためにはいいと思うんですけど、ときどき陽子さんが「それってどういうことですよ～」と相づちが入って、それが入るだけですごいわかりやすくなる感じがあったので、そういうのをちょっと工夫しながら取材してもらおうと、すごい幅広くいいかなと思いました。

例えば” たます” の話なんかのときも、僕も最近「たます分けて何か？」について色んな人からきいてわかっていたので、聴きながら最初からわかったんですけど、一緒に聴いていた嫁は「何の話か？」と言って、あ～～～！最後のほうに「人に分ける話か～」って。最初のほうで「たます」って何か、「たますって〇〇ですよ～」みたいなのをちょっとわかりやすい言葉であいづちを入れるだけですごいわかりやすくなるかなあ～と思います。

ほんとに資料としても良くて、ちょうど先週行っていた学会の、サンゴ礁学会っていう学会なんですけど、こういう聞き書き調査する人がいて「こういう感じの人がいますよ！」というのが近い感じでインタビューがあって、昔の風景が浮かぶような記録として活用できるような方法もひとつ。あとからどんな番組があったと、(WEB などできける)みえるようにあるといいなというのが他の番組を通して感想としてある。島らしくていい番組かなあ～とっていて、家族で聴いてみました。

藤井委員長

今日欠席の迫田委員からの感想を紹介します。

お世話になっております。アビコムデザインの迫田です。番組審議会「なきやわきやシマ自慢（芦検集落）」の件です。今回、スケジュールの調整ができず、申し訳ありません。

良い点は、

全体的にローカルで温かみのあるトークが良いです。

今回、出張先で聴いたので今までとは違う印象でした。

芦検集落の方々の会話が、島に帰りたくなる、戻りたくなる癒しの声（BGM）という感じでした。

島外で生活しているシマッチュが聴くことでUターンを促進できないかな～と思いました。

方言は聴いても分からない部分がありましたが、渡さんが通訳しながら進行してくれるので理解できました。また、集落ならではの伝統や文化（まちあみ漁、たますわけ等）を知るきっかけにもなるので良い番組だと思います。

改善して欲しい点は、数人で一気にしゃべると聞こえづらい箇所もあります。

工事の騒音が入っている部分が少し気になりました。以上、よろしくお願いたします。

和泉委員

最初のほう、音が入っていたよね。

放送局 渡

ちょうど、豊年祭の前日に取材にいったんですよ。工事の箇所から離れたところでインタビューしたんですけど、「さんしき」を打ちはじめたところで、(一同笑) ばあ～～～ちドライバーの音がきこえて、あとで

ドライバーしてもらえませんか?とお願いして、、、

楠田委員

それも見えた! (一同笑)

和泉委員

工事している感じしたよね、なんか。笑

-放送局 丸田

ちょうどそういう時期で、豊年祭時期で、さんしき打ち方している横で取材しました、っち説明入れるとか、

-放送局 渡

確かに、ネッセなんか(若い衆)がさんしきを打つ隣で取材しています、と説明するべきでしたね～

和泉委員

「うるさいんですが、ちょうどこういう作業してまして～～」とか?!

-放送局 渡

「実況」ですね。

和泉委員

逆にいいんじゃないですか、音が入っても。逆にね、集落の雰囲気伝わって。

藤井委員長

ですね、生活の音が。

では、次は玉野さんです。

申し訳ございません。今日は18時より予定が入っており、審議委員会に遅参になりそうなので、先にご意見を文書にてお送りいたします。今回のラジオの番組は、インタビュアーとの良い意味での「慣れた感じ」で話し掛け方は、とても楽しく拝聴することができました。さすが、渡さんだなと感じました。みなさんが話しているうちに「あれもこれも色々な事を伝えたい!」という気持ちが感じとれ、聴く方も、話す方も元気にする番組だなと思いました。

個人的に方言が聴くのはなとななく分かるけど、話せない私には、なとななく話がわかり、力入れずに聞ける番組で良かったです。仕事しながら、聴くのはむずかしかったです。

年上の人と共に聴くなら「どんな意味?」ってコミュニケーションもとれる感じがしました。知らない島の話など、経験豊かな方がご高齢になり、聴く機会が減る中で、このような番組は長く続いて欲しいと思います。意見のような意見じゃないような 的を得ないまとまり方ですみません。

集落行事や老人ホーム、道端で夕涼みしてる方へ突然話するとか、旅行客を捕まえて、インタビュアーと一緒に話を聴いてもらうとか質問をしてみるとかもいいかもですね。まとめるの大変かもですが。色々な話をしてくれたじいちゃんを思い出しました。ありがたさまりようた。

星村委員

つくり的な構成的なところで思ったのは、とても面白いな～っていう、

多分あちこちの集落にいったら、「自分の集落が一番じゃ！」というのが反応されると思うんですけど、ああいう、今回のような番組を流すと、「自分のシマ（集落）も取材してくれ！」とか、そういう声があちこちからあがるのではないかな～と思って、自分が住んでいる集落も結束が強いのでそういう風に壮年団とか言いそうだなあ～と思ってききました。

個人的に心に残ったのは「ていんがま（いたずら）は、みんながま（見る）しても、、、」発音違うと思うんですけど、「ていんがま（いたずら）はするな」っていう教え、ばあちゃんがよく言ってたな～と思って。懐かしいなあ～と思って。

北部と南部で地域は違うんですけども、私は龍郷なので、（＝芦検集落は大島南部、龍郷は大島北部だけでも）宇検でも同じなんだな～っていうふうに思いました。

藤井委員長

ちなみに僕は最後まで意味がわからなかったんですけど、「ていんがま」は手で何かして??

星村委員

手のいたずらです。

徳山委員

いたずらするんだったら、手でこうやるんじゃなくて、口で

星村委員

見るだけじゃなくて??

徳山委員

見るだけとか、口とか。

一放送局 丸田

「ガサ」のことですよ。 ” ティンガマ ” 余計ないたずらするな。

一放送局 渡

いらすんなよ～みたいな。

一放送局 丸田

いたずらすることを ” ティンガマベーリし、 ” っち。

一放送局 渡

この番組なんですけれども、“イベント・催しを見に行っ、ナキャワキャ島自慢で構成する”ということもあった。たとえば、ショチョガマをみにいってナキャワキャ島自慢で放送する、といったように。そしたらまた1年後にショチョガマが出てくる、といった制作を先輩達がされていたようでした。私が思ったのが、

でも、他の集落にも名もなき集落の名もなき声があるんじゃないのかな～と思ひまして、集落をまわって、なるべく高齢者の方に出てもらって、そういった方々の小さかった頃の集落のようすを尋ねてみたりとか、また行事の話もきいて、まずは各集落を1回ずつまわろうと思って今どんどん取材にいらっているんですけど、またいつか一周したら、その時は1回目に話をきいたばーちゃん達は亡くなっているかもしれないけれど、その次のまた上がってきた方々が先輩となつて、古い記憶が残っているというか。

高齢の方々が亡くなられてしまうと、今、残っているいろいろなシマジマの風景っちいうのはもうなくなってしまうじゃないですか。

(奄美郷土研究会の)故・中山清美先生がおっしゃっていた「シマ(集落)の風景の記憶を残す」というのを目指していらして、清美先生が「みんなが、思い出している集落にかつてあつた井戸のこととか、水道がどこにあつたよね。いっこいっこの小さくていいから、エピソードをきけたらいいよね」というのがあつて、私自身の相づちがへたくそなのあるんですけど、「話を途切れさせずに盛り上げる」ということを目標にしています。どうやったら、話し手のみなさんが、忘れかけていたことを思い出して話してくださるかな、とか今目指して取り組んでいます。なので、”足運だん””足を運んだことがない集落”にいきたい。メジャーな集落というか、有名な行事のある集落もですけども、知られていない、今歌ってもらわないとなくなっていく唄について歌ってもらって、その唄を(音として)残しておきたいというのがあります、制作を目指しています。

ちょっと真面目になつてしまつてすいません。

楠田委員

素晴らしい

一放送局 渡

取材の場について、ある程度やりとりを予想して行くんですけど、生の声がたくさんあります。(今回の芦検集落でも)「ナキヤしまぬ自慢はぬーだりよんにゃ?」「あなたの集落の自慢は何ですか?」と聞いてみると「わんの自慢はよ～」ち言つて、「みちぬは～た、金かぶや～♪」と唄から自慢がはじまつたりとかですね。

和泉委員

金かぶ節!!!

一放送局 渡

なんかこう、ほんとあのときしか聞けない、”そういうオジいるよね～”と共感して、どこにもいると思うんですけど、各集落集落が、奄美大島、奄美群島面白いんだと思いますので、どんどん面白いところに、みんなが面白いんですけど、取材していきたいなあと思つています。

徳山委員

収録のときはどこかに集まつてインタビューやるんですか?

一放送局 渡

はい、それぞれの集落ですけどね。公民館のときもあれば、人の家のときもあれば、芦検集落の「みや

一(広場)」みたいなところで。

和泉委員

芦検集落は「稲すり節」が有名であったり、音楽が入ってくると出身者の方は聴いたらびっくりするよね！「ワンなんかの集落の音楽じゃがな〜」みたいな感じで。

他のところもほら、うちなんかも結局小さい集落だけど、自分の集落の八月踊りの音律が鳴ったときは「あれ？」っち、音楽なんかもいろいろ考えているからすごいな〜と思って。その地区のを探してくるのかい？ち思って。

一放送局 渡

収録のときは絶対に「唄を歌ってください」っち言って、唄は歌ってもらうんですけど、昔歌っていた唄で、今歌わなくなった唄とか。音程がわからなくなってしまうたらもう誰も歌えなくなってしまうので。

和泉委員

うちの大和村でも志戸勘集落っちいって、3名くらいしかいない集落がある。そういう集落の場合、結局楽しみはテレビみるしかない、っち。さびしいな〜っち。

一放送局 渡

大和村の志戸勘もすごく行ってみたくて、ずっとトライしているんですけど、なかなか難しいんですけど、そういう場合は出身者の方々への取材でもいいですかね？

和泉委員

そうそう！！出身者の方が名瀬にいるので。小さいところになると喋る人もいなくなるので。結局人間というのは喋らなくなると喋らなくなってしまうという。コミュニケーションというっちいうのがすごく大事だと思うので。まあだけど、話しかけるっちいうのはすごくいいことかなと。

一放送局 渡

すごく悩んだ番組で、どうしたらいいのかな〜と最初すごく悩んだんですけど。

和泉委員

自分も(大和村役場)社会教育課で文化財も担当しているんだけど「(昔の記憶を)本当に残さんばいかん」ちいって、中山清美先生から「座談会をやってよ、茶飲み話でそれを録音してどーのこーの」っちいって。「あー！このことを言っていたんだな」と思って。「あー、いいねえ〜」ち思いながら。こういう機会をもうけらんばいかんね、っち思って。わざわざそれを呼ぶっちいうんじゃなくて、その場所に行ってやるっちいうのがいいことかな〜っちいって。だってあの〜、こうわざわざ集まってっちなると、なんか畏まると方言がでないんですよ。丁寧な言葉喋ろうちなったら言葉がどンドン、今回は言葉が自然に出ているっち感じがして。自分なんか目指している、自分なんかも考えなければいけないな〜っち。あとはこっこの聞き方が陽子ちゃんなんかみたいにうまければいいんだけど。

-放送局 渡

あちこちの集落を塗りつぶして「取材にいった」「取材にいった」となりたいですね。

-放送局 丸田

一巡したらまた次の世代になっているから。

徳山委員

でも集落ってどのくらいあるんですか？

-放送局 渡

300 くらいあるんじゃないですか？

星村委員

年間でどのくらい集落まわるんですか？

-放送局 渡

年間 25 の集落くらいですね。

-放送局 丸田

奄美っ子と隔週でナキャワキャ島自慢を放送しています。子どもの人数が多い学校であれば奄美っ子が連続となる場合もあります。

-放送局 渡

どの集落も面白くて、ほんとうに惚れてしまいますね、その集落にいくと。みんなバイタリティがあつて。

藤井委員長

収録の時間は放送の時間と同じくらいですか？

-放送局 渡

結構収録の時間が長いかも知れませんね。そこから編集して。

一同

すごいね

星村委員

大正生まれの人もいませんでした？

和泉委員

92 歳？

星村委員

今昭和91年だから。

和泉委員

あー、そっか。

藤井委員長

集落自慢だけではなくて「靴がない時代だった」って(証言があつて)。そういう話は世代が違つくと、あー、そういう時代があつたんだと。全然ぼくの頭にある世界じゃなくてすごい面白かったです。靴がないから、自分の足のサイズがわからないという、

和泉委員

昔の人は結局、その人の親から教わつたことをいうから、自然的に教訓というね。今の高齢者の方々もその親父なんかから(教訓を)もらったという教え。昔の人ってすごいね〜と。あの島口の先人の教訓つちすごいね〜と。

一放送局 渡

みんなすごいです。どの集落も。

和泉委員

だからそれを記録として残さないと自分達もやっぱりね。

一放送局 渡

土浜と、本龍郷ですか？星村さんの集落？

星村委員

手広です。

一放送局 渡

手広ですか！取材にいきますね！！

星村委員

喜ぶと思います。

楠田委員

お待ちしております。

星村委員

(地元ミュージシャンの)エラブチさんがいる！(一同笑)

星村委員

離島とかも行く予定なんですか？

一放送局 丸田

離島はなかなか行けないですね。

星村委員

自分たちのところに取材してというのがあるときは取材するんですか？

一放送局 丸田

もちろん、お声があればね、断るというのはないんですけど、地図上たとえば、北やったら南やって、といったようにバランス的なものであったりとか、本当にくまなく。

なかなか難しいんですよ。一人で稼動ひとつ。しかも放送を担当しながらといったところもあったりして。だからその中で取材にいけるところに行くという。

一放送局 渡

でも将来的にスタッフが増えて、あちこちの離島というか、島々にも行ってきくべきかな、っちは思っています。それぞれの集落のものを録りたいなあというのはありますね。

星村委員

なんか島に住んでいても、奄美大島っていろいろあるなあ〜って、思って聴きますよね。

伝えたいことの話でオバたちが言っていたじゃないですか。その伝えたい話をきいていても「あ〜、こういうのが豊かなんだな〜」っていろいろ知れるっていうか。

和泉委員

やっぱりあれですね。陽子ちゃんみたいな後継者を。元気のあるスタッフをどんどんどんどん増えていけばな〜っちな感じ。うちなんか要望としては。そうすればね。

藤井委員長

すごくテクニカルに上手に喋れるっていうよりやっぱり、こう島の人と、、、

和泉委員

うん！そうそうそう！

一放送局 渡

取材時は「うがみんしょうらん〜！」ちいくんですけど。笑

方言も間違えてもどんどん使っていこうと思っています。島口ニュースの番組でしまゆむた伝える会の今里信弘さんっちらっしゃるんですけど、信弘兄も若いときは実は島口を全然使っていらっしゃらなかったらしくて、30代の頃、地域の方々との飲みでのコミュニケーションのなかで、「島の方言使わんばや、」と思い始めて、方言を使い始めて、（間違えた方言と）怒られながらも使って、「がしあらんど（そういった使い方

じゃないよ)」と言われて使いながら、今ご覧のように60代で島口がベラベラになっていらっしゃるの。

和泉委員

みんなが方言を使う機会があればね。

-放送局 丸田

今ひとつ問題があって、私も島口なんとか取り組まないといけないと思っています。

今登場された信兄は、今里さんはフーガサンの人よね。

-放送局 渡

はい

-放送局 丸田

信兄なんかは今年年されて、その方30代のころもどったときには”まだ方言を喋る、さらにその上の大先輩に喋る方言”があったんですよ。

一同

それっち。

-放送局 丸田

もう私達の世代は、最後の生き残り、生き残りっちな言い方失礼ですど、それよりも先輩に喋る方言がもう出てこないんですよ。先輩に喋るきれいな、つちゅうか、丁寧な綺麗な言葉が。だから聴けないんですよ、その会話の中に入っておって、同じ飲み会で、段階を経ての方言の変化というのを聞きながら、「あー！あの兄の世代にはこんなに喋らんばいかん」 みたいなのを目の当たりにすることができると思うんですけど。それが今ないんですよ、ね～。

-放送局 渡

それやりましょうね

-放送局 丸田

陽子なんかが集落をまわっているときに大正生まれの本当に、今いらっしゃるおじおばなんかには、80のおじおばなんか敬語つかって「みしよりしょんにゃ～」とか、喋っているのが一瞬かいまみれるくらいで 日常にあふれていないので、なかなか難しいんですよ。これなんとか、綺麗な言葉残さないとな、と思いつながらなんですけどね。

星村委員

本当ですよ。昭和一桁の方が、大正生まれの方に使う言葉違いますもんね。

-放送局 渡

島口の敬語マスターしたいですね

星村委員

生きてらっしゃる方々が先生ですよ、本当にね

-放送局 渡

この手蓑ですが、ばあちゃんたちと近くにいたので、若い割には聞き取りができるんです。

-放送局 手蓑

聴きはできますね、喋りはしきらんです。

-放送局 渡

まわりで聞き取りできる人いますか？20代でいますか？

-放送局 手蓑

じいちゃんばあちゃんと一緒に住んでいる友達とかは聞き取りできますね

和泉委員

こどもとばあちゃんが一緒に暮らしている子どもは、すごい方言が面白くて、きいと思ったらみんな笑っていたけど。小さい子どもが「ユカシャ！」という。「ユカシャにソウケがあるから持ってこい」っち言ったっちいって。

-放送局 渡

床下のことですね。ハハハ

和泉委員

シャ、ウィとかね！フランス語みたいな

藤井委員長

番組についてはおおよそ、こういうところで。

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ① 自社放送:平成 29 年 1 月 21 日(土曜日)6:00～放送
- ② 書面の備置き:平成 29 年 1 月 21 日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を問う法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応
- ③ インターネット:平成 29 年 1 月 21 日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

9 その他の参考事項 なし